

## 研究ノート

## インテリアと「癒し」および「和み」の感覚との関係

— 写真評定法による因子抽出の試みと  
「癒し」・「和み」の評価プロセスのモデルの提案 —

後 藤 靖 宏

## 目 次

1. はじめに
2. 方 法
3. 結 果
4. 考 察
5. 謝 辞

## 1. はじめに

本研究の目的は、インテリアと、「癒し」および「和み」という心理的感覚との関係を探ることである。同時に、「癒し」と「和み」のニュアンスの違いを探ることも目的としている。

いわゆる「癒し」という言葉は、1990年代後半から使われ始め、1999年の流行語大賞に「癒し」という言葉がノミネートしたころを境に一気にブームに火が付いたように思われる。「癒し音楽」、「癒し空間」などといったような、我々の日常生活に関わる事柄に対して「癒し」という概念が持ち込まれるようになってきたのもこのころである。そもそも、「癒し」という言葉の本来の意味は「病気や傷をなおす」、「飢えや心の悩みなどを解消する」(広辞苑第5版)ということである。しかしながら、近年の使われ方は多種多様であり、曖昧で、「癒し」という言葉だけが独り歩きしているき

らいがある。このような背景をもとに、「癒し」の心理的構造が研究されはじめてきた。

秋元ら(2003)は、癒しは〈安心—やすらぎ因子〉や〈希望—清らか因子〉など10の因子からなるとし、その因子得点プロフィールによって、一括りに「癒し」と言われている様々な事物が何型の癒しに属するのか明らかにしている。例えば、ぬいぐるみは〈触感的安堵〉〈安心—やすらぎ〉型、初日の出は〈希望—清らか〉型の癒し対象などのように分類されている。泊(2003)の研究では、癒しにはマイナスをゼロの状態に戻す作用と、ゼロからプラスの状態に転じさせる作用があると認識されていることを明らかにし、同時に、癒し関連商品をよく利用する人の特徴として、自己愛傾向が強いことや、ネガティブライフイベント経験が多いことを挙げている。また、後藤(2000, 2001)では対象を音楽に限定し、音楽による癒しとは、具体的にはどのような状態のことを表すのかということを調べる目的で調査が行われている。調査の結果、音楽を聞いて「癒される」と感じる状況として、「体力的・精神的に疲れた時」や「イライラしている／腹が立ってる時」、「落ち込んでいる時」などの回答が得られた。また、癒されると感じる音楽の種類(ジャンル)として、クラシック、ポップス、バラードなどがあげられた。さらに、「癒し」と類似してい

る言葉として、「やすらぎ」、「やさしさ」、「落ち着き」、「回復」、「安心」などの回答が得られている。

本研究では、このような「癒し」という感覚と、居住空間における重要な要素であるインテリアとの関係を探り、また「癒し」と「和み」のニュアンスの違いも探るために、質問紙調査を行った。インテリアと、その心理的効果との関係を探ることに問題意識をもった心理学的研究は少なく、多くは建築系研究者によるものである。そのような中で、池見(1999)は、触感覚が室内の「くつろぎ」に影響を及ぼすことを指摘している。また、大野・小林(1998)は、個人の予期図式、つまり個人が持っている「居間とはこのような空間だ」というイメージが「落ち着き」の評価に影響を与えている。さらに、宇治川(1995)は、同じ空間でも利用目的によって評価が異なると述べている。

本調査では、岩重(1991)に倣って、まず使用する評価語と写真を選定するための調査を事前に行うこととした。よって、本研究は、1) 評価語の選定、2) インテリア写真の選定、および3) 選ばれた評価語と写真を用いて作成した質問紙調査の3ステップから成る。この3ステップによる探索的研究で、「癒し」や「和み」の感覚をもたらしインテリアの特徴をつかみ、また2語のニュアンスの違いについて考察した。

## 2. 方 法

### 評価語の選定

小林(1997)の「インテリア用言語イメージスケール」180語を用い、「室内空間を表現するために少しでも必要と感じた語に好きな数だけチェックして下さい」と教示を与えた質問紙を作成した。「インテリア用言語イメージスケール」とは、「言語イメージスケール(人間が色に対して抱くある共通した感覚を形容

詞で表しスケール化したもの)」を、インテリア用に語句を入れ替えたものである。質問紙を20名の大学生の被験者に配布し、16名分が回収できた。16名中、過半数の9名が必要と感じた35語を、意味が類似している語(例:「シンプルな」―「すっきりした」)をまとめ、反対の意味の語(例:「洋風の」―「和風の」)を一对にした。それにより、18対の評価対ができた。18対の評価対に「癒される一癒されない」「和む一和まない」を加えた20対を評価対として決定した(付録1)。

### 写真の選定

8誌のインテリアカタログから100枚の写真を取り出した。基準は、人物が入っていないこと、多目的な空間である居間を想定していることであった。写真には、それぞれ1～100の番号を振った。また、商品名や商品番号などの余計な情報を削除するため、画像加工ソフトJTrim(作者:WoodyBells,ソフトの種類:フリーソフト)で加工した。

後述する「質問紙本調査」に回答しない7名(男子2名、女子5名)の大学生の被験者に、100枚の写真それぞれについて7段階(−3～+3)の好悪判断をさせた。同じ7名の被験者に相談させ、100枚の写真を似ているもの同士でグループ化させたところ、最終的に20グループが作られた。グループごとに好悪判断の度数分布を作成し、正規分布に近い形態を示したものの10グループに絞り、各グループから代表となる写真をそれぞれ選出された。その際、代表となる写真は、グループ内の好悪判断の平均値に最も近い平均値を持つ写真とした。これにより選出された写真をそれぞれa～jとする(付録2)。

### 質問紙本調査

**被験者** 北星学園大学の学生1年生から3年生までで、218名(男子55名、女子163名、平均年齢19.8歳)であった。回答に記入漏れ

が著しく多い1名を除き、217名の回答を分析の対象とした。

**質問紙** 被験者には、選定した10枚の写真全てについて回答させた。評価語はあらかじめ選定した20対で、本研究のポイントである「癒し」と「和み」は、他の評価語の影響を受けないように、あるいは均等に受けるように、最初と最後に配置した。それを用いて、例えば「とても明るい～とても暗い」というように、各評価語について7段階評定をさせた。また、部屋の利用目的と「癒し」や「和み」が関係しているか見るために、「写真の部屋は次の行動にどのくらい適していますか？」という問いを設けた。室内行動を因子分析した乾（1982）を参考に、「A. 書類を読む・手紙を書く」、「B. 食事をとる・テレビを見る」、「C. ぼんやり過ごす・考え事をする」の3つの行動について「全く適していない～とても適している」で7段階評価をさせた。さらに、「あなたは写真の部屋で暮らしたいと、どのくらい思いますか？」という問いを設け、「全く暮らしたくない～とても暮らしたい」で7段階評価をさせた。

用紙はA4サイズを横方向に使い、半分より左に写真、右に評価語を配置した。なお、写真は、特定の順序で提示することによって何らかの影響が出ないように、ラテン方角法により10パターンの順序を用意した。

### 3. 結 果

質問紙の「A. 書類を読む・手紙を書く」を「事務的行動」、「B. 食事をとる・テレビを見る」を「休憩的行動」、「C. ぼんやり過ごす・考え事をする」は「静的行動」と呼ぶ。

まず、本研究の主眼である「癒される」の項目と「和む」の項目で、写真を要因とする1要因10水準の分散分析を行った。その結果、「癒される」における写真の主効果( $F[9, 1917]=66.180, p<.001$ ) および「和む」に

おける写真の主効果( $F[9, 1944]=67.563, p<.001$ ) が観察された。Tukeyの対比較によって下位検定を行ったところ、「癒される」の項目では、aとb, aとd, aとi, aとj, bとd, bとj, dとj, fとg以外の全てのペアにおいて有意な差が見られた( $p<.05$ )。「和む」の項目ではaとd, aとh, aとi, aとj, dとh, dとi, dとj, fとg, hとi, hとj以外の全てのペアにおいて有意な差が見られた( $p<.05$ )。

次に、各写真における「癒される」「和む」の項目の平均値を出し、順位を出した。同様に、3種類の行動の適・不適と「暮らしたいと思う程度」の項目も平均値とその順位を出した(表1～6)。

写真ごとに相関を分析したところ、全ての写真において「癒される」と有意な相関が見られた語は、「ゆったりした( $r=.545\sim.735$ )」、「ぬくもりがある( $r=.240\sim.603$ )」、「居心地の良い( $r=.536\sim.709$ )」、「開放的な( $r=.141\sim.344$ )」、「落ち着いた( $r=.389\sim.574$ )」、「親しみやすい( $r=.404\sim.618$ )」、「ナチュラルな( $r=.291\sim.551$ )」、「和む( $r=.501\sim.599$ )」、「静的行動( $r=-.367\sim-.599$ )」、「暮らしたい( $r=-.446\sim-.705$ )」であった( $p<.01$ )。また、「和む」と有意な相関が見られた語は、上記に加えて「かわいい( $r=.162\sim.427$ )」、「清潔な( $r=.203\sim.395$ )」、「事務的行動( $r=-.145\sim-.343$ )」および「休憩的行動( $r=-.154\sim-.470$ )」であった( $p<.05$ )。

写真ごとに評価語20項目の因子分析(主因子法, バリマックス回転, 固有値1以上)をしたところ、似たような傾向を示したため、全ての写真をまとめた因子分析(主因子法, バリマックス回転)をした。その際、被験者一人当たり10枚の写真に回答しているので、 $217\text{名}\times 10\text{回}=2170$ 個のデータとして扱った。固有値が1以上の基準で4因子が抽出されたが、第4因子が1項目のみであり、その

表1 「癒される」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	h	2.37	1.305
2	i	2.63	1.237
3	a	2.79	1.295
4	d	2.85	1.367
5	b	2.85	1.298
6	j	2.88	1.262
7	c	3.16	1.299
8	g	3.83	1.596
9	f	3.94	1.461
10	e	4.65	1.575

表4 「休憩的行動」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	i	5.55	1.560
2	f	5.06	1.638
3	j	4.79	1.627
4	b	4.29	1.600
5	a	4.28	1.647
6	d	4.16	1.737
7	g	3.91	1.719
8	h	3.80	1.676
9	c	3.68	1.709
10	e	3.13	1.629

表2 「和む」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	i	2.58	2.004
2	a	2.69	1.751
3	h	2.71	1.327
4	d	2.72	1.897
5	j	2.89	1.780
6	b	3.16	2.086
7	c	3.39	1.776
8	f	4.02	1.963
9	g	4.05	2.780
10	e	4.79	2.286

表5 「静的行動」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	h	5.73	1.362
2	b	5.50	1.475
3	j	5.39	1.446
4	i	5.23	1.625
5	g	5.05	1.605
6	c	5.03	1.633
7	a	4.97	1.565
8	d	4.55	1.810
9	f	4.00	1.705
10	e	3.92	1.900

表3 「事務的行動」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	d	5.22	1.566
2	j	4.84	1.617
3	a	4.81	1.623
4	b	4.73	1.681
5	f	4.67	1.640
6	c	4.62	1.830
7	i	4.39	1.750
8	h	4.12	1.870
9	e	3.94	1.880
10	g	3.74	1.878

表6 「暮らしたい程度」における写真の順位

順位	写真	平均値	標準偏差
1	h	5.29	1.470
2	j	4.98	1.509
3	i	4.71	1.567
4	a	4.69	1.611
5	f	4.67	1.699
6	b	4.61	1.652
7	c	4.35	1.496
8	d	3.98	1.705
9	g	3.91	1.750
10	e	3.15	1.712

項目の第2因子への因子負荷もある程度の大きさ(.337)を持っていたため、因子数を3に設定して再度分析をした。表7は各因子に含まれる語を、因子負荷量の高いものから順に示したものである。第1因子は、「和む」、「居心地のよい」、「癒される」などに対して負荷量が高く、「居心地」に関する因子とした。

第2因子は、「簡素な」、「地味な」などに対して負荷量が高く、「活動性」に関する因子とした。第3因子は、「明るい」、「古風な」などに対して負荷量が高く、「形式」に関する因子とした。なお、累積寄与率は51.729%であった。

表7 インテリア評価語に対する因子分析結果

項目		第1因子 居心地	第2因子 活動性	第3因子 形式	共通性
和む	和まない	.8028	.2921	.0939	.739
居心地のよい	居心地の悪い	.7820	.1924	.2412	.707
癒される	癒されない	.7447	.2760	.1690	.659
親しみやすい	親しみにくい	.6752	.3214	.2276	.611
落ち着いた	落ち着かない	.6460	.3634	-.0143	.550
ゆったりした	窮屈な	.6270	.1192	.2386	.464
ぬくもりがある	ひんやりした	.6032	-.1366	-.0953	.392
ナチュラルな	人工的な	.5497	.4472	.1390	.521
簡素な	華やかな	.1334	.8306	.0476	.710
地味な	派手な	.1664	.7633	-.2515	.674
シンプルな	ゴージャスな	.1728	.7513	.3411	.711
静かな	にぎやかな	.2484	.4345	.0365	.252
明るい	暗い	.0979	.1215	.7116	.531
古風な	現代風な	.2585	.0897	-.6808	.538
開放的な	閉鎖的な	.1713	.1600	.6500	.477
かわいい	かわいくない	.2395	.0521	.5810	.398
しゃれた	しゃれていない	.1734	-.1687	.5332	.343
洋風の	和風の	-.2452	-.4436	.5096	.517
清潔な	清潔感の無い	.1898	.3687	.4600	.384
女らしい	男らしい	.1010	.0419	.3978	.170
固有値		4.179	3.107	3.060	
累積寄与率 (%)		20.897	36.430	51.729	

## 4. 考 察

### 全体的傾向

インテリアと「癒し」および「和み」の感覚との関係を知るために質問紙調査を行い、項目ごとに写真の順位を出し、また評価語の相関分析と因子分析をした。その結果、人がインテリアをどういった側面で捉えているかということが把握することができた。

第1因子は、「癒される」や「和む」を含んでいるため、「居心地」因子と名づけた。これの寄与率が高く、居心地が空間の評価にとって重要であることがわかる。第2因子は、「簡素な—華やかな」、「地味な—派手な」などの項目が含まれているため、「活動性」因子と名づけた。活動性は、SD法を用いた印象評定でしばしば抽出される因子であり、それが本調査でも同様に見られたことになる。第3因子

は、「明るい」、「古風な」など見たそのままの様子を形容した語がほとんどであるため、「形式」に関する因子と考えた。この第3因子の寄与率が3つの中で最も低いのは、人間が個々の項目よりもそれらが集まってできた全体をまず捉える性質を持っているからであると考えられる。なぜなら、形式が「地味な—派手な」などの活動性を形作っているからである。つまり、形式因子に含まれる個々の項目「明るい—暗い」などそれぞれが部屋を構成した結果、全体として地味な雰囲気を感じられたり、派手な雰囲気を感じられたりすることである。また、形式が全体として「癒される」などの感覚を引き起こしているのであろうが、そうした感覚は直感的なものであるのに対し、形式は記述的・説明的である。

このように、インテリアを評価する要素が分かれていることを一度把握することで、こ

れから述べる「癒し」と「和み」が、寄与率の最も高い第1因子に含まれる重要項目であることが確認できた。

「癒される」の項目で平均点が上位の写真は、多少順位の変動はあるものの、「和む」の項目でも平均点が高かった(表1・表2)。それらの写真には、植物があるか、緑色の家具の面積が広いという特徴がある。浅野(1999)によれば、世界各地の病院やホスピスで、実際に緑の環境整備が進められているという。この理由として“人間は樹上生活を営むサルから進化したため、緑に囲まれた空間に居ると安心する”(浅野, 1999)という可能性も、あるいはあるのかもしれない。

ただし、いくら「緑」が効果的であっても、たとえば「癒し」・「和み」の平均点が下位の写真に写っている家具が緑色になれば即評価が上がるとは考えにくい。特に写真eは両項目において最下位だが、これには家具のスタイルが大きく影響していると考えられる。写真eの家具は、テーブルの脚がいわゆる「猫脚」になっており、ソファは重厚感のあるヨーロッパ風のスタイルである。このようなスタイルは一般的な日本人には馴染みが薄い上、格式ばった趣があり、緊張感が生まれてしまうのではないだろうか。このような重厚感のあるソファが置かれることの多い空間の一つに、ホテルのロビーがある。本調査の被験者が大学生であったことを考えると、そのような空間を日常的に利用しているとは考えにくく、なおさら緊張感を持つと考えられる。

他にもソファが写っている写真はあるが、他の写真のソファの座面が広いのに対し、写真eのソファは一人掛け用で座り方の自由度がない。自分の座りやすい体勢で自由に座れることも、「癒し」や「和み」とも関わっているように思われる。

ではなぜ、座り方の自由度が低い写真cよりも、写真fと写真gの評価が「癒される」の項目においても「和む」の項目においても低

いのであろうか。それは“素材感”の問題ではないかと思われる。写真cは床が木材、家具が籐製という植物性の自然素材であるが、写真fは壁面にAV家電が並び、床がタイルの人工素材である。写真gはソファが革、ラグとクッションが毛皮風という動物性の自然素材である。人工素材に囲まれた生活の現代社会ゆえに、自然素材に「癒し」や「和み」を求めるのかもしれない。

ここまでをまとめると、「癒される」または「和む」部屋として評価されるためには、まずインテリアの「スタイル」で基準をクリアし、次に「素材」、その次に「座り方の自由度」の点で基準をクリアしなければならないという仮説が考えられる。本調査に先立って行った「癒される部屋・和む部屋とはどのような部屋か？」という聞き取り調査において、白色や茶色、緑色という回答が数多く見られたことから、「色相」もこの時点で影響を及ぼしているのではないかと思われる。

### 「癒し」と「和み」のニュアンスの違い

考察の冒頭で示したように、「癒される」と「和む」の平均点が高い写真はほぼ共通しており、それぞれの感覚が全く別個のものではないということがわかる。ただし、順位の入れ替わりを見ると、両者の間にある若干の違いが窺える(表1・表2)。たとえば、「癒される」で1位だった写真h(ソファあり)が「和む」で3位にランクダウンし、床に座る写真iと写真aが「和む」においてランクアップしている。写真d、写真i、写真aのように「床に座わる」日本のスタイルが「和み」のキーワードになりそうである。また、評価語「和風のー洋風の」の平均点を用いて、「和風の」の方向から順位を出した場合の上位3つは、写真a、d、iであり、それら3つの写真は「癒し」よりも「和み」の得点の方が高くなっていた(表8)。この点でも「和み」は漢字の通り、「和」との関わりが深いと考えられる。

評価語の相関を見てみると、「和む」の方が「癒される」よりも相関のある語が多かった。具体的には、「かわいい」、「清潔な」、「事務的行動」および「休憩的行動」の4つが、「癒される」と相関があったものに加わっている。

今回の実験からは、これらの因果関係について考察することは難しい。ただし、たとえばいわゆる「和み系玩具」などに代表されるようなおもちゃや、子犬などのペットを考えると、「かわいい」と「和む」との間には何らかの関係があると考えることができるかもしれない。一方の「癒し」は、前述したように本来「治療」の意味をもっており、マイナスの状態から回復するという意味合いの語である。「かわいい」については、それほどの“回復力”はもっておらず、それが「和み」にのみ相関が見られた可能性もあるであろう。

また、「清潔な」に関しては、「癒される」との間に相関がない。この点が「癒し」と「和み」の違いを考えるポイントになりそうであるが、清潔感と「和み」の間にどのような関連があるのかについては今回の実験からは明確なことは言えない。

「癒される」では3つの行動のうち「静的行動」のみと相関があったのに対し、「和む」で

は他の2つとも相関があったことから、「和む」の方が「癒される」よりも多目的な場でも感じられる可能性が高いと考えられる。

## 「癒される」と「和む」の評価過程のモデル

以上のことをモデルとしてまとめたものを図2に示した。また今回、事務的行動・休憩的行動・静的行動の3つの室内行動における写真の順位がそれぞれ異なっていることから、目的によって部屋の好ましさに変動があることを再確認できた。

「暮らしたいと感じる程度」の評価では、「癒される」や「和む」では下位であった写真fが順位を上げ、上位であった写真dが順位を下げている。写真fは「モダン」とでも呼ばれるスタイルで、若い世代の憧れとなりやすい。逆に、写真dのような和室は一般の家庭にもよく見られるもので、好きではあっても憧れ

表8 和洋順における癒しと和みの平均値比較

写真の順位		和みの平均値		癒しの平均値
和風	d	2.72	<	2.85
	i	2.58	<	2.63
	a	2.69	<	2.79
	j	2.89	>	2.88
	c	3.39	>	3.16
	h	2.71	>	2.37
	b	3.16	>	2.86
	f	4.02	>	3.94
	g	4.05	>	3.83
洋風	e	4.79	>	4.65

※平均値が小さいほど、「癒される」・「和む」を意味する。和風の方に評価された写真d, i, a (床に座る)においてのみ、癒しの平均値よりも和みの平均値が小さい。

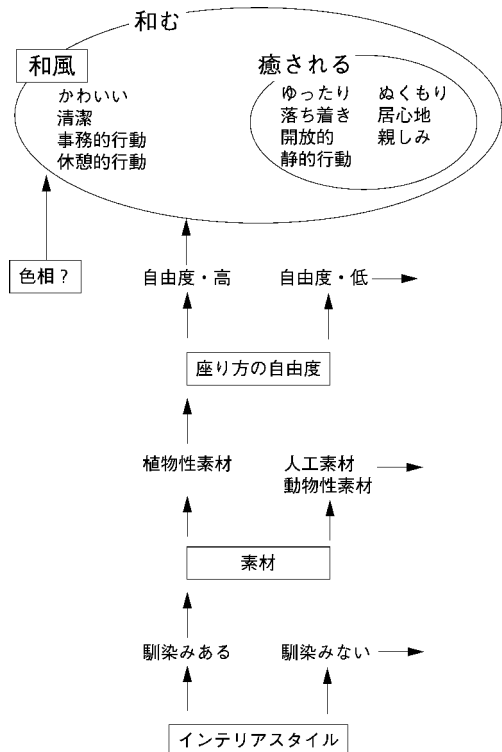


図2 「癒される」と「和む」の評価プロセスのモデル

る気持ちとは結びつきにくい。そのため、「暮らしたい」という思いには「憧れ」が関わっている可能性があると考えられる。ただし、「暮らしたい」の言葉には「試しに暮らしてみたい」と「長年生活する場として暮らしたい」の2つの意味のとり方がある。本調査ではどちらの意味での「暮らしたい」なのかを限定しなかったため、被験者がどちらのつもりで回答をしたかを区別することはできない。もし、「試しに暮らしたい」の意味に限定していたら、より「憧れ」の要素が大きく働いたかもしれない。逆に、「長年生活する場として暮らしたい」の意味に限定していたら、おそらく実用的かどうかの観点なども含まれたであろう。

今回明らかになった癒される部屋や和む部屋の主な特徴は、以下のようなことである。

1. 植物があるか、それにかわる緑色を家具に用いている。
2. 普段から馴染みのあるインテリアスタイルである。
3. 部屋や家具の素材に植物性の自然素材を用いている。
4. 床に座るタイプや広いソファなど座り方の自由度が高い。

もし、癒される部屋や和む部屋を作ろうとするならば、最低限これらを念頭に置くとよいであろう。その上で、ゆったりした感じや落ち着きのある雰囲気を演出できるよう、家具の配置や部屋の明るさ、色のトーン(明度・彩度)などの工夫を心がけるとよいと思われる。

今後は、「癒されそうな」部屋に入った人間が本当に「癒される」のか調べる必要があり、そのためには「癒される」という感覚を測定する尺度が必要であろう。郷式(2003)は、状況により変化する覚醒状態を測定する尺度として、「アラウザル・チェックリスト(GACL)短縮版」が適当であるとしている。このような尺度と「癒し」に関係がないか調

査することが、「癒されそうな」インテリアの特徴を引き続き調査することと共に重要な課題である。

この研究を進めることで、最終的には、実際の生活に適用させられる形で、「このような空間づくりをすれば癒される」といったような提言をしていけると考えられる。インテリアと「癒し」のより詳細な関係が明らかになれば、個人の私室ばかりでなく、病院・福祉施設・温泉などの保養施設などにも応用できるであろう。また、現在街中には「癒し」を売り物にしたリフレクソロジーの店舗が数多く見られる。そこは、マッサージによる触覚的な「癒し」を提供する場であるが、その癒し効果を高めるため、インテリアにも工夫が必要であろう。

本研究では、インテリアと「癒し」および「和み」の感覚の間にどのような関係があるか、質問紙によって調査してきた。それにより、癒される部屋や和む部屋の特徴をいくつか掴むことができた。また、「癒し」と「和み」のニュアンスの違いについては、「和風」と「かわいさ」「清潔さ」をキーワードとして確認することができた。よって、今後は、以上の結果を踏まえて、より「癒し」に対象を絞って研究が望まれる。

## 5. 謝 辞

本研究にあたり、谷橋瞳(北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科 2006年3月卒業)の多大なる協力を得た。記して謝意を示す。

本研究は、北星学園大学特別研究費(「音楽と居住空間の“癒し感”の相互作用に関する認知科学的研究」, 研究代表者 後藤靖宏)の補助を得た。



[引用文献]

- 秋元貴美子・佐藤清公・高久暁・外島裕・長島正紀・松本洸・山崎晴美 (2003). 「癒し」の心理的尺度化に向けて — 「癒し」の心的構造をデータから求める —. 日本大学芸術学部紀要, 38, pp.23-31.
- 浅野房世(1999). 癒しのための緑空間 — ヒーリング・ランドスケープについて —. 厚生, 54(10), pp.52-55.
- 後藤靖宏 (2000). “癒し音楽 (healing music)” に関する基礎調査(1). 北海道心理学研究, 23, 23.
- 後藤靖宏 (2001). “癒し音楽 (healing music)” に関する基礎調査(2): 音楽による“癒され感”の因子構造について. 北海道心理学研究, 24, 93.
- 郷式徹(2003). 気分形容詞チェックリストにより測定された覚醒度の検討 — アラウザル・チェックリスト (GACL) 短縮版の修正 —. 静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会科学篇), 53, pp.271-280.
- 乾正雄(1982). 建物の窓が在室者に及ぼす視覚的影響. 心理学評論, 25, pp.3-17.
- 池見正剛(1999). 対比により高まる居住空間の快評価について. 日本大学心理学研究, 20, pp.19-27.
- 岩重博文(1991). 住まいにおける台所空間評価について. 広島大学教育学部紀要, 40, pp.193-199.
- 小林重順(1997). カラーリスト—色彩心理ハンドブック. 東京都: 講談社.
- 大野隆造・小林美紀 (1998). 住宅の室内空間の落ち着きに関する研究 — 個人の予期図式による環境評価モデルの提示 —. 住宅総合研究財団研究年報, 25, pp.95-104.
- 泊真児 (2003). 大学生における “癒し” 商品・場の利用イメージの構造. 筑波大学心理学研究, 26, pp.133-143.
- 宇治川正人(1995). シティホテルのインテリアデザイン評価と利用意向率の予測に関する研究. 日本建築学会計画系論文集, 473, pp.43-50.

## 付録1 インテリア評価対

1. 写真を見て抱いた印象と近い数字に○をつけてください。

	と と も	か な り	少 し	ど ち ら で も な い	少 し	か な り	と と も	
癒される	1	2	3	4	5	6	7	癒されない
ゆったりした	1	2	3	4	5	6	7	窮屈な
シンプルな	1	2	3	4	5	6	7	ゴージャスな
明るい	1	2	3	4	5	6	7	暗い
洋風の	1	2	3	4	5	6	7	和風の
ぬくもりがある	1	2	3	4	5	6	7	ひんやりした
静かな	1	2	3	4	5	6	7	にぎやかな
女らしい	1	2	3	4	5	6	7	男らしい
居心地の良い	1	2	3	4	5	6	7	居心地の悪い
開放的な	1	2	3	4	5	6	7	閉鎖的な
しゃれた	1	2	3	4	5	6	7	しゃれていない
落ち着いた	1	2	3	4	5	6	7	落ち着かない
古風な	1	2	3	4	5	6	7	現代風な
かわいい	1	2	3	4	5	6	7	かわいくない
簡素な	1	2	3	4	5	6	7	華やかな
地味な	1	2	3	4	5	6	7	派手な
清潔な	1	2	3	4	5	6	7	清潔感の無い
親しみやすい	1	2	3	4	5	6	7	親しみにくい
ナチュラルな	1	2	3	4	5	6	7	人工的な
和む	1	2	3	4	5	6	7	和まない

2. 写真の部屋は次の行動にどのくらい適していますか？ 数字に○をつけてください。

「1：全く適していない～7：とても適している」とします。

	全く適していない		どちらでもない			とても適している	
①書類を読む, 手紙を書く	1	2	3	4	5	6	7
②食事をする, テレビを見る	1	2	3	4	5	6	7
③ぼんやり過ごす, 考え事をする	1	2	3	4	5	6	7

3. あなたは写真の部屋で暮らしたいと、どのくらい思いますか？ 数字に○をつけてください。

「1：全く暮らしたくない～7：とても暮らしたい」とします。

全く暮らしたくない		どちらでもない			とても暮らしたい	
1	2	3	4	5	6	7

付録2 質問紙で使用した写真



写真 a



写真 b



写真 c



写真 d



写真 e



写真 f



写真 g



写真 h



写真 i



写真 j